中華民国・台湾 調査報告書

平成 30 年 7 月 6 日～9 日

自由民主党神戸市会議員訪台団

自由民主党神戸市会議員訪台団 団員リスト

団長　安達和彦

安井俊彦

平井真千子

佐藤公彦

河南忠一

長瀬猛

五島大亮

植中雅子

岡田裕二

上畠寛弘

調査日程

平成 30 年 7 月 6 日

関西国際空港発 中華民国桃園国際空港着

1. 台湾貿易センター（ＴＡＩＴＯＲＡ）訪問、

台湾貿易センター董事長 黄志芳元外務大臣と面会

2. 台北市観光局訪問

3. 中華民国外交部主任秘書、元台北駐大阪経済文化弁事処

処長蔡明耀氏と面会　於 アンバサダーホテル

平成 30 年 7 月 7 日

高速台北駅発　高速左榮駅着

日台交流サミット in 高雄 出席

平成 30 年 7 月 8 日

高速左榮駅発 高速新竹駅着

1. 新竹県長 邱鏡淳氏と面会・意見交換　於新竹県長公邸

新竹県より台北市へバス移動

2. 誠品書店 視察

平成 30 年 7 月 9 日

中華民国国防部訪問、参謀総長・海軍大将 李喜明氏と面会

中華民国桃園国際空港発 関西国際空港着

調査の目的と意義

７月６日（金）より７月９日（月）までの４日間、日華親善神戸市会議員連盟として台湾を訪れ、台湾政府の各種要人と面会を行うとともに、高雄市で開催された「日台交流サミット in 高雄」に参加した。

「日台交流サミット in 高雄」には神戸市会だけでなく、日本側からは 42 の地方議会、323 人の地方議員らが参加。台湾側からも高雄市、台北市など 22 議会から 118 人の地方議員が参加し、日台外交史上、最大規模の地方議員交流サミットとなった。

折しも、この台湾出張の時期は、西日本豪雨災害により、徐々に我が国土と国民の安全が脅かされつつあったタイミングと重なった。日台交流サミットに来賓として参加した台湾の頼清徳首相は、日本の災害における被害が最小限に食い止められることを祈念するとともに、今後は地震や台風などの自然災害や防災・災害救援に日台両国が協力して、両国の自然災害の影響を軽減する相互協力体制を築いていくことが提案された。

高雄市議会の康裕成（カン・ユーチェン）議長と名古屋市会の藤田和秀・全国日台友好議員協議会会長が代表して締結した「高雄宣言」においても、台湾と日本は、民主主義の理念を共有するパートナーというだけでなく、災害発生時など、相互に支えあう協力関係にあり、「困ったときの友こそ真の友」であるとの精神の下、「台湾と日本の友好の新しい時代」を築いていくというものであった。

また、私たち訪台団は、このサミットへの参加のみならず、黄志芳・元外相や蔡明耀・外交部主任秘書（外務省官房長）、台湾国防軍参謀総長など、蔡英文総統と日常的にコミュニケーションを取り得る立場にある、政権中枢の人物との面会も行ない、その際、日台両国での防災、災害救援に関する協力要請をも行った。但し、この７月７日の「日台交流サミット in 高雄」に関するこの日の大会参加費、及び交通費、宿泊費については政務活動費を使用していないことを申し添えておきます。

私たちの帰国直後の７月１０日、蔡総統は西日本豪雨に対し、日本円にして二千万円の支援を行うことを表明した。これは、我々だけの働きによるものでは勿論ないものの、史上最大規模のサミットが開催されたことや、自治体レベル、地方議員レベルでの交流が近年活発化していることが少なからず影響した結果であると考えられ、私たちの議員外交も、わずかながらその一端を担うことが出来たのではないかと自負している。

西日本豪雨において、私たちの日本国は、まだまだ防災に備えての動員体制、災害時の移動や輸送のための社会資本インフラなど、整備途上のことが多く残されていることを学んだ。

3.11 東日本大震災では、台湾の民間企業や公的団体から 200 億円近い義援金が送られ、台湾総統府からは 30 人の救援部隊が東北の被災地に派遣され、発電機や毛布、食料品など支援物資が提供されたが、災害の時に、お互いの政府は、そして自衛隊と台湾国防軍はどう支え合うことができるのか、我々議員レベルの草の根外交がその素地を作っていくことは、政治の責任としてとても重要なことであるように感じられた。神戸市民の命を守る実際の災害対策、防災・減災政策、国際相互支援につながっていくよう、今回私達が視察や面会等で得ることが出来た知見、知識を、今後具体的な政策へと具現化していくよう、更に励んで参りたいと思っています。

また、陳菊秘書長(総統府官房長官・前高雄市長))や謝長廷駐日大使(元首相)など政権の中枢や地方行政のトップである邱鏡淳新竹県知事にもお会いするとともに、対外貿易発展協会の黄志芳董事長、台北市観光局沈永華専門委員や誠品生活份有限公司の李伯儒氏に面会し、台湾企業の神戸への進出についてのインセンティブ策等をお示しするなどして、シティセールスを行った。

今回特に、台湾を訪問して感じたことは、蔡英文総統にしても、陳菊秘書長にしても、今回のサミットのホスト役を務められた高雄市の康裕成市議会議長にしても、女性が活躍する姿が印象的であった

また今回の台湾に限らず、海外の姉妹都市等を訪問した時に必ず感じることだが、議会の位置づけは日本と違い極めて大きいように感じる。

海外都市との友好議員連盟も増えている中、今後益々、諸外国の都市との交流も増えることが予想され、議員の活動の幅も広がると思われるが、議連をサポートする市会事務局の体制も、例えば国際担当を設置するなど強化されるよう要望するものである。

自由民主党神戸市会議員訪台団団長　安達和彦

7月6日 台湾貿易センター（ＴＡＩＴＯＲＡ）訪問

台湾貿易センターは日本のＪＥＴＲＯにあたり、台湾企業の海外展開支援ならびに外資企業の台湾誘致を担っている。現在、台湾貿易センターの関西圏の拠点はＡＴＣに大阪事務所が設置されているが、台湾企業や台湾進出を目指す日系企業ともにその立地上の不便さがあるという認識を把握したこと、また、神戸市への台湾企業の進出として、ハイウィン株式会社（台中市）が神戸市西区サイエンスパークに対する１５０億円規模の投資が決定したことを踏まえて、我々は台湾貿易センター董事長である黄志芳氏（元中華民国外務大臣）との面談に臨んだ。過去にも同センターの他会派議員による訪問はあったが、同センタートップである董事長職との面談は初めてのことであった。

黄董事長との面談ではまず、台湾貿易センター大阪事務所に対する上述した立地の機会点を申し上げたところ、その現状について董事長は把握していなかった。そこで、ハイウィン株式会社の神戸市への大規模な進出をひかえた今、台湾貿易センター神戸事務所の設置を提案しその有効性を説き、神戸市企画調整局のオフィス進出支援制度について当方より紹介した。また、同席した前大阪事務所長からもＡＴＣが不便であり立地的に課題があることは説明がされ、黄董事長からは我々の提案に対して謝意を示し、前向きな検討を図りたい旨の回答を賜ったところである。

現状として台湾貿易センター大阪事務所についてはＡＴＣの使用料について安価に設定されており、現契約の満了まで３年程度の期間があるので、契約満了後の大阪事務所の移転を実現するため、神戸市としてはＡＴＣの貸与条件を把握し、その条件に勝る条件を提示することで台湾貿易センター誘致を行うべきである。

台北駐大阪経済文化弁事処（駐大阪中華民国領事館相当）のインテリジェンスを担当する部長からも、台湾貿易センターに対して神戸事務所設置に向けた我々の働きかけに協力を受けていることから、より中華民国政府側から台湾貿易センターに対する影響を及ぼすことを期待し、神戸市が台北駐大阪経済文化弁事処や中華民国政府に対する経済的メリットというよりも政治的メリットをもたらす政策を展開することで更に手厚い協力が得られることを確信する。
（文責 上畠寛弘）

董事長 黄志芳元外務大臣との会談の様子。
黄董事長は蔡総統の側近で、当日は韓国から帰国し我々との会談に臨む。

中華民國対外貿易発展協会董事長
黄志芳閣下、

神戸市は、かねてより、貴国との交流の歴史が深く、貴国国父 孫文先生も神戸市に滞在され、孫文先生の記念館が神戸市にはございます。今も貴国民は多数居留され、神戸市民と共に手を取り合って、神戸市の発展に貢献していただいています。

台湾貿易センターにおかれては関西地方では大阪に事務所を設置されています。しかしながら、立地条件を含めた利便性の向上を検討されている旨を伺いました。そこで、是非、神戸市への事務所設置をご検討いただけないでしょうか。

神戸市は、新幹線をはじめＪＲ、私鉄、地下鉄など様々な手段によって縦横に結ばれた鉄道網、高速道路が整備され、西日本は勿論、東京へのアクセスは抜群です。神戸都心部からは最短 18 分で神戸空港へアクセス可能であり、神戸港は開港より１５０年を経て世界１３０余国５００余りの港と結ばれており、神戸市は人の移動だけでなく、物流ニーズにも対応するコンパクトな街です。

私達、日華親善神戸市会議員連盟を構成する自由民主党神戸市会議員団に所属する神戸市会議員は貴国との親密な友好関係を構築すると共に貿易の拡大、貴国企業の神戸市への進出、神戸市の企業の台湾への進出を応援し、より一層の経済連携を進めて参りたいと考えております。神戸市に進出された場合には、神戸市内であれば、賃料に対して最大４分の１、限度額７５０円/㎡、100 万円/年、最大 36 カ月の補助を行っており、更に神戸市の神戸国際経済地区内でオフィスを賃借される場合は、賃料に対して最大 2 分の１、限度額１５００円/㎡、200 万円/年、最大 36 カ月の補助を行っており、台湾の公的機関や企業の進出に対して万全の準備が出来ております。

以上を踏まえて、私達神戸市会議員は、台湾貿易センターの活動を最大限支援することをお約束し、神戸市に台湾貿易センター神戸事務所の設置を強く要望いたします。

平成 30 年（2018 年）7 月 6 日
日華親善神戸市会議員連盟・自由民主党神戸市会議員団
神戸市会議員 安達和彦　神戸市会議員 安井俊彦
神戸市会議員 平井真千子　神戸市会議員 佐藤公彦
神戸市会議員 河南忠一　神戸市会議員 長瀬猛
神戸市会議員 五島大亮　神戸市会議員 植中雅子
神戸市会議員 岡田裕二　神戸市会議員 上畠寛弘

7 月 6 日　台北市観光局 訪問

台北市観光局訪問の目的は、神戸市と台北市の観光局相互協力による、お互いのインバウンド観光客増加についての意見交換をするためであった。

冒頭、本年２月に台北市で行われたランタン祭りの様子がプレゼンされ、過去に議員団から神戸市観光局に要望し、神戸市からランタン祭りへのブース出展をお願いしていた経緯から、神戸市のブースの様子なども報告された。その後、いろいろな切り口から、相互観光交流の意見交換がなされた。

本年２月に行われた台北市ランタン祭りに初めて神戸市からブース出展させてもらった件については、初出展については大変感謝しているものの、規模がまだ小さく、ランタン祭りであるのにランタンの出し物が無かった事については少し残念に思われており、これが　神戸市の観光施策としては、今来てもらっているファンを確保しつつ、新たな顧客層を開拓していく事が必要であるが、台湾については既に神戸市へのインバウンドとしては最も多い顧客層になっており、前者の確保していく顧客層であると言える。

ただ、相互にバランスが取れているかというと、台湾からのインバウンド旅行者に対して日本から台湾へのアウトバウンドはおよそ３分の１にとどまってしまっているため、こちらからの観光客を増やしていく事も、引き続き台湾からの旅行者を維持拡大していくためには政策心理的に必要であると意見を頂いた。

そのために、ランタン祭りへの協力や、台北市からはルミナリエ他のイベン

トに対する協力を相互に深めていく事が、相互の旅行客増加につながっていくエンジンにもなると考えられる。

神戸市にはだんじり祭りなどもあるという事を伝えると、ぜひ見てみたい、そして、だんじりを台北市役所に展示させてもらい、神戸の広報をさせてもらう事もできるという話も頂いた。

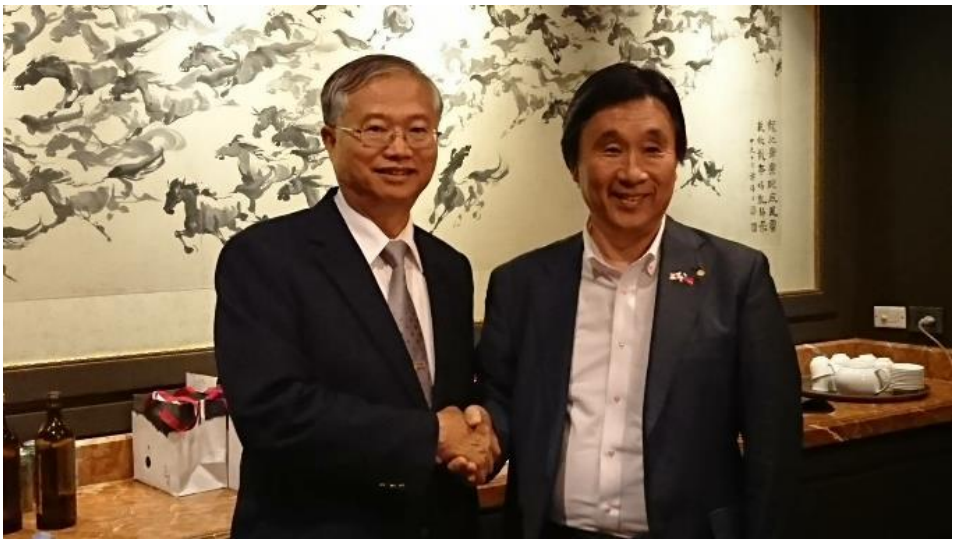
意見交換の後、台北市役所内で行われている、台北探索館を案内された。台北市の歴史や地理、観光地を案内されるものであったが、デジタル技術なども用いられた見ていて楽しいものであり、案内のためのボランティアさんなどもいて、中身は充実していた。

神戸市役所にも 24 階に展望台などがあるが、訪問客は多い割に、展示内容については固定的であるようにも感じられ、またおもてなしの雰囲気にも（台北市に比べると）欠けるところもあるため、こういった良いところはマネをさせてもらえたらと感じた。（文責 五島大亮）

観光局を訪問。かなり真剣な議論ができた。中でも局長の Su-yu chan 氏から、毎年１回、正月の１５日の「元宵節」の説明と御案内を受けた。特に国際的に注目を受ける事になった経過については、神戸の持つ欠点、つまり伝統的なまつりやイベントを持っていない、せいぜい神戸パレードかルミナリエ程度で国際的に売れるものではない。しかしこの国は旧正月を売り、ランタンを上手に売り込んでいる。その手法を学ぶべきである。つまり珍しい物を上手に売っている。そこで私はダンジリパレードを売りにすべく発言した。来年の５月１日、天皇陛下の後退典に合わせて約５０基のダンジリが神戸に集う。優雅で勇ましい神道にまつわるものだと P.R すると、是非見に行くと発言された。今後、台湾とまつりで相互の国民が交流観光をする事を話し合った。（文責 安井俊彦）

台北市ではランタン・フェスティバルは「国際交流」を大きなテーマとしているとのことで、日本からも青森県のねぶた祭りが山車を出品している。神戸も昨年ブースの出品はしたということで、山車でパレードに参加した際の特典などご案内いただいたが、ランタンの制作等に多額の費用が予想され、国内外からの観光客で賑わうイベントとして魅力があるが、明確に PR の目的がなければ参加は難しいだろう。安井議員が、東灘区で日本のだんじりを集めたパレードの企画を紹介され、台湾からも参加してほしいとアプローチがあった。このような祭りを媒体として誇りとする文化を紹介しあうという交流も今後日台にとって有効ではないかと感じた。（文責 平井真千子）

7月6日　中華民国外交部主任秘書（官房長相当）・元台北駐大阪経済文化弁事処処長蔡明耀氏と面会



7月6日、元台北駐大阪経済文化弁事処処長であり、現在台湾外交部主任秘書（官房長）の蔡明耀氏と久しぶりに再会。

7日の「日台交流サミット in 高雄」に参加の為訪台したこと、また来年の10月、神戸メリケンパークで台湾フェスタを計画していること等を報告するとともに、ご多忙な中、我々自由民主党神戸市会議員団をお迎え頂いたことに対し、感謝の意を表しつつ、現在進捗中の台湾企業の神戸進出に対しても、外交部としてもご助力頂けるよう、更なる後押しを依頼致しました。

元々蔡明耀主任秘書は駐大阪総領事であった関係で神戸との縁も深く、頼りになる存在であるが、今回定年を迎えられるらしく、部署及び肩書が変わられるそうであるが、協力を約束して頂きました。

蔡明耀主任秘書は、明くる7日高雄で行われた日台交流サミットにも出席されていました。（文責 団長 安達和彦）

7月7日　日台交流サミット in 高雄　等

７月７日午後３時から、高雄展覧館において「日台交流サミット in 高雄」が開催されました。（尚、「日台交流サミット in 高雄」に関するこの日の大会参加費、及び交通費、宿泊費については政務活動費を使用していません。）

今年４度目になるこの日台交流サミットは、これまでは日本で開催（金沢市、和歌山市、熊本市）されてきましたが、今回初めて台湾で開催されるということで、地元メディアの関心も高いものがありました。

（　http://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/2479021　・http://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/2475254　など）

日本側からは 42 の地方議会、323 人の地方議員らが参加し、そのうち 12 名は議長、5 名は副議長とのことです。主要な参加者は東京都議会、大阪府議会、北海道議会、佐賀県議会、三重県議会、群馬県議会、福岡県議会、大分県議会、名古屋市会、大阪市会、横浜市会、札幌市議会、熊本市議会、和歌山市議会、加賀市議会、松本市議会、有田市議会、那覇市議会、金沢市議会、八王子市議

会、岡山市議会、富山市議会、徳島市議会、山形市議会、魚津市議会などで、多いところでは､東京都議会の参加者 15 人にものぼります(神戸市会は１３人)。

台湾側からも、高雄市、台北市、新北市、桃園市、台中市、台南市など 22 議会から 118 人の地方議員が出席しました。そのうち 5 議会からは全議員が出席しました。

来賓として挨拶した頼清徳首相からは、先月大阪で起こった地震に続き、日本では未だ大雨が続いており、被害が最小限に食い止められることを期待するとともに、今後は地震や台風などの自然災害や防災・災害救援に日台両国が協力して、両国の自然災害の影響を軽減する相互協力体制を築いていくことが提案されました。

また、トランプ米大統領は米国、日本、インドだけでなく、オーストラリアまで含んだ「インド太平洋戦略」を掲げ、それに呼応するかのように、蔡英文総統は「新南向政策」を提案し、今後南アジアが国際的に重要な地域となってくる。日本の安倍晋三首相はインドや東南アジア諸国で多くの事業を行っていることは世界に知られており、今後日本と台湾は、産業開発、経済開発、産業協力など、新しい南アジア地域の発展においてさらに協力することができると強調されました。

高雄市議会の康裕成（カン・ユーチェン）議長が主催者側の責任者となり、日本側の代表は名古屋市会議員の藤田和秀・全国日台友好議員協議会が務め、「高雄宣言」が採択されました。高雄宣言の内容は、台湾と日本は、民主主義の理念を共有するパートナーというだけでなく、災害発生時など、相互に支えあう協力関係にあり、「困ったときの友こそ真の友」であるとの精神の下、「台湾と日本の友好の新しい時代」を築くというものです。

今後広範な二国間交流の拡大に貢献し、二国間の観光の繁栄を促進し、国際機関での台湾の参加を支援するために、台湾と日本が最も密接な地域パートナーを形成することを掲げています。具体的には、日台が地域において最も緊密な連携パートナーシップを築くため、「全体的かつ進歩的な太平洋パートナーシップ協定」（Comprehensive and Progressive Agreement for Trans-Pacific Partnership, CPTPP）に参加し、日台双方の観光振興等のため相互がより一層協力していくことが掲げられました。

その後、基調講演を行った謝長廷・駐日代表（元首相）からは、昨年だけでも、台湾の首長や地方議員は日本の 14 の県市を訪れ、日本の知事や市長はまた台湾へ 23 回も訪問し、双方で 32 の友好協定が署名され、台湾と日本の非政府間交流は 646 万人に達したとされました。しかしこれは十分ではなく、日本と台湾の間の交流が具体的な経済発展に貢献するのだから、台湾と日本は引き続き努力すべきであるとされました。

地方空港からの直行便が増えつつあり、例えば、日本の

高校生が海外に行く際の最初の選択肢として、台湾のツアーを選択した数が、ハワイに行くよりも多くなり、日本への台湾観光客は過去 10 年間で 5 倍になったことが強調されました。

また、「困ったときの友こそ真の友」の精神の下、台湾の 9.21 大地震、日本の 3.11 東北大震災、高雄ガス爆発事故等の際、安倍首相から「台湾加油」との直筆の書が送られ、蔡英文総統からも Twitter 等で呼びかけがありました。

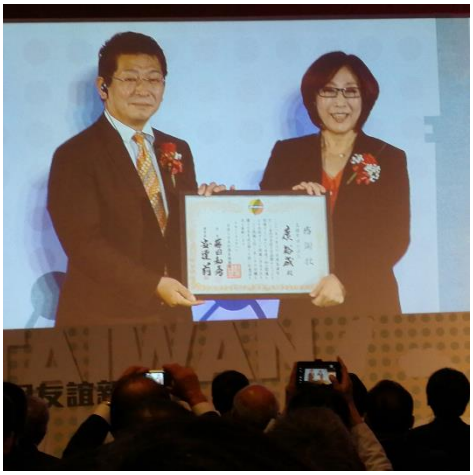
台湾と日本との間に築かれる協調の「良好なサイクル」は世界平和のモデルとなり、この「良好なサイクル」がやがてアジアに広がり、やがては世界を平和にすることを期待すると述べられました。

その後、日本と台湾の双方より、介護や農業に第一線で取り組んでいる専門家から、各々の国の先進的な取り組みについて、パワーポイント等を用いた紹介がありました。(文責 岡田ゆうじ)

サミットの会場になった高雄展覧館(KEC)は、初めて伺いましたが、4 年ほど前に新しく港の間近に出来た国際展示場(2 万 8000 ㎡)ですが、屋内・屋外展示場のみならず、4000 人収容の大会議室など大小の会議室をも合わせ持つ、台湾 MICE をしっかり担える素晴らしい展示場でありました。それに比して、我が神戸市の　国際展示場は規模から言っても甚だ小さく、老朽化も目立ち、国際の二文字が付いているのも恥ずかしいくらいですが、建て替え新築が決まっていることから、この際中途半端なものでなく、真に国際的に通用する展示場を建設されるよう、切に願うものであります。
（文責 団長 安達和彦）

主に移動日で台湾の新幹線で台北(08:51)から左営(10:30)移動。
日本の旧型新幹線とまったく同じで、日本と台湾の関係の深さを知った。その

事より、台湾の国民の中で卓球の愛ちゃんの特大の写真広告には嬉しかった。
又、駅の中の授乳室の案内に授乳する写真があった事に日本との感覚の違いが感じられた。（文責 安井俊彦）



７月８日　新竹県長（知事相当）邱鏡淳氏と面会・意見交換

新竹県は、神戸と同じく台湾のシリコンバレーを目指している地域であるが、

神戸の有馬温泉と新竹の温泉との連携を契機として、急速にお付き合いが進んでいる地域です。今回の訪問は邱県知事が本来なら５日からの訪米を予定しておられ、残念乍ら面会がかなわないと思っていましたが、我々の訪台予定を聞かれ、わざわざ訪米の出発予定を ８ 日の夜に延期されたため、急遽８日の昼にお会いすることが出来ました。

私自身は、邱県知事にお会いするのは今回で４回目でありますが、邱県知事のお客様をお迎えするホスピタリティーの高さには頭が下がる思いです。
当初こうべ市民連合の議員とともに、14 名でお会いする予定でありましたが、こうべ市民連合の４議員は、7 日突如起こった豪雨の為に、急遽訪台を中止されたので我々自由民主党神戸市会議員団の 10 名の議員のみで面会になりました。
邱県知事にも、神戸進出の際のインセンティブを記載した資料を渡し、台湾企業の神戸進出を後押しして頂けるようお願いしました。
邱県知事は、我々の面会に合わせて新竹県に進出している日本企業の代表として花王の現地法人の社長（日本人）と工場長（台湾人）を紹介して頂きました。

新竹県知事訪問については、地元メディアである新竹新聞・ＴＢＣの取材陣が駆け付け、会談の様子を取材されました。新竹県における神戸市に対する注目度は官民ともに高く今後の展開に期待できます。（文責 団長 安達和彦）
　知事の邱鏡淳先生に会った。もう同氏とは何回も会っている。神戸にも来て下さった。同氏は長期的な視野を持っていて、新竹県を見事に先端技術の産業県とし、アジアの中で群を抜いている県となっている。彼は日本よりアメリカに

向いていて、神戸市の向かう方向においても参考になる。例えば下着を着たら血圧、脈拍等が測定できる下着等も研究しているし、研究者をアメリカで学習させている。台湾の最重要県であり今回来た事は成功で、神戸市はこの県ともっと親交を深めるべきである。しかし同氏も引退と聞いているので次なる人脈をつなぐ必要がある。（文責 安井俊彦）

7 月 8 日 誠品書店 視察

誠品書店　誠品生活松菸店訪問　7 月 8 日　李特別助理･江広報以下 3 名に対応頂いた

誠品書店訪問の目的は２つあり、１つは神戸市への企業誘致としての誠品書店の神戸市出店、そしてもう１つは神戸セレクションの誠品書店における販売広報チャンネルとして協力頂く事である。

誠品書店は台湾を含めアジアに約 50 店舗を展開しており、書籍以外にも生活文化関連製品を販売展開している。

書籍については、店舗ごとに売り方は様々であるが、単純なる書店という陳列ではなく、空間として楽しんでもらうことに主眼を置いているという。

誠品生活では、地元のデザイナーやクリエイター等を応援する目的で、賃借

料を取らず、ブース形式でチャレンジショップに新人の商品を陳列し、顧客がつくものについては点数や販売数を増加させていき、最終的にはブランドとして独立させ世界へ羽ばたいていけるようにという事業を行っている。
神戸セレクションについては、誠品書店は興味を持っており、神戸セレクションについても、協力体制をつくり誠品書店で当初神戸セレクションブースなどを作ることなどの要請を受けている。これが実現すれば、神戸の駆け出しのデザイナーやクリエイターの作品が、国内のみならずアジアへ展開できる事になるため、市内産業の活性化に結びつくと考えられる。このため、協力体制づくりはスピード感をもって行われるべきであるため、帰国後、産業振興センターへの要望を続けていきたい。

神戸への出店についても、企画調整局の企業進出補助金の簡体字パンフレットなどをお渡しし、改めての要請を行った。誠品書店が来神すれば、これは単なる書店の新規出店ではなく、台湾のもつ文化がついてくる事になるため、書店・生活文化関連品のみでなく、台湾の外食産業なども関連して神戸へ流れてくる事が期待できる。
そうなれば、親日感情をもつ台湾の人々の来神のインセンティブにもつながる事と、日本国内からの観光客の増加にもつながるものと期待でき、今後も出店を続けて要望していきたい。

書籍についても生活文化産業についても、デザインや空間というものを大事にしているところが、ユネスコデザイン都市でもある神戸市の感覚と共通するものがあり、是非とも出店して頂きたいと改めて感覚を持った。
当議員団の以前からの働きかけにより、本年 3 月 18 日に誠品書店の呉董事長に来神頂き、KIITO において「神戸・台湾　創造的生活文化産業に関するセミナー」を開催して頂いている。
この関係性を今回の訪問も契機にしてさらに発展させ、２つの目的について実現できるよう引き続き働きかけて参りたい。（文責 五島大亮）

台北に向かって誠品書店を視察した。これは単なる書店ではなく、百貨店でもなく、モールでもなく、有名な作家やデザイナーやアーティストが特色ある製品や物品を販売したり共に作成したり、参加型の巨大なショッピングセンターとホテルが融合しているもので、日本進出を考えている。すでに東京に進出が決定していることから、神戸に誘致しようとして今回の訪問、視察となった。私は失望した。神戸のどこでやるのか。（文責 安井俊彦）

今回訪問した誠品生活は書店の他にファッション、雑貨、飲食、映画館などここに来れば台湾の最新カルチャーを全て感じられる一大拠点であった。客のほとんどが 40 歳くらいまでの年齢層と見られ、台湾の若者に絶大な訴求力を発揮しているようだ。最新ブランドが揃うショッピングモールなら日本にもいくらでもあるが、ここのようにお茶の試飲やクラフトの制作など体験型の店舗をフロアいっぱいに揃えた場所は無いのではないか。また、伝統的な物産品と、若いクリエイターによるチャレンジショップが混在するおしゃれでありながら雑多な雰囲気も上手いと感じた。神戸においては神戸セレクションなどで地元企業のブランドづくりを支援する取り組みがあるが、誠品のブランドのプロデュース力、魅力ある売り場づくりには大いに学ぶべきである。また「若者に選ばれるまち」を標榜しながらも、現状では若者が目指してくるスポットに乏しい神戸に、誠品生活のような若者が一日過ごせるような拠点がぜひ必要と感じた。（文責 平井真千子）

私からは、「街の賑わい」の観点から「誠品書店」の視察に関して報告致します。視察先の誠品生活松菸店は、五島大亮議員の紹介で実現しました。五島議員によると、誠品書店は、日本進出の構想があるが、首都東京ではなく、地方都市を検討しているとのことで、三宮の再整備に伴い神戸への誘致の可能性を考えているとのこと。

誠品書店は、台湾の書店チェーンであり、日本の代官山蔦屋書店が参考にしたと言われている。今回の視察先、誠品生活松菸店は、書店のみならず、デパート・ショッピングモールの要素を持つモール・デパートである。

１階の風景

通常、デパートでは、１階に化粧品売り場を持ってくるのが日本のデパートの定石であるが、誠品書店では、１階は新進気鋭のデザイナーで台湾に関係あるものを販売している。通常であれば、若手のデザインした商品は店頭の一番よい場所に置かれることは稀だが、誠品書店では、バイヤーがセレクトしたもの

が、商品ごとに並べられる。誠品書店側も在庫を持たず、反応がよいものは、陳列ブースへと格上げされることもある。

１階の商品はモノかデザイナーが台湾に由来しているものを扱っているとのことで「ここだけ感」が強い商品構成が特徴でお客を引き寄せている。
地下は、カフェスペースと映画館を中心としている。

お洒落なカフェ空間と共に映画照明をイメージしたオブジェがお店を飾る

２階は、DIY を中心としたブースが軒を並べる。DIY といっても、ホームセンターのようなものではなく、感度の高い商品をお洒落な空間で自分のためやプレゼントのために部材を買い、インストラクターの指導の下、工作する。

ガラス製品を自分で作る　　絵付けを行う

ポイントは、高感度なモノをしっかりと指導を受けて、自分だけの逸品に仕上

げること。

指輪などに彫金　　**自分だけの革製品を作る**

いずれも、購入者がカフェを思わせるブースで熱心に指導を受けているのが印象的。

お洒落なランプも　　**部品を購入して DIY ブースで仕上げます**

３階は、誠品書店とカフェ（中国茶）が数件。

「総評」
非常にお客様を多く、活気に富んだユニークなスタイルのデパートであった。
誠品書店が神戸に来るかどうかは兎も角、これからは商品を売るだけ・買うだけの関係から、お洒落な空間で自分だけの逸品を作り上げる空間に、商店が変わっていく可能性を感じた。

疲弊している街の商店街でもこの考え方を導入してはどうだろうか？
例えば、魚を売るだけではなく、店主に捌き方を教えてもらって、料理も作る。
単なる物の売買から「体験型をベースにした販売手法」の可能性を感じる。

何か最後に消費者と供給者が共に手をかけることによって、「逸品」が出来上がる。そんな特別感を目の肥えた消費者は望んでいるのかもしれない。
誠品書店の営業スタイルから、未来の商店のあり方を感じた。（文責 河南忠一）

この店舗について特筆すべきは、官民共同によるエリアマネジメントが徹底している点である。元々戦前の専売公社のたばこ倉庫を保存活用すると共に、一帯を公園化して、敷地中央に近代的な店舗棟とホテル棟を配している。荒廃していた湖沼は再整備して親水公園として遊歩道を配置、そこからの夜間景観も計画的に整備されていた。
相当な広さの自遊空間があり、台北の新しい若者文化を誘発する仕組みがそこかしこに仕組まれていた。誠品書店の店舗もさることながら、一帯が文化的で魅力的な空間づくりが為されており、そのことが店舗やホテルへ向う人々の「わくわく感」を醸していたように感じた。来るべき三宮中心市街地再整備において大いに参考とすべきである。

いよいよ書店（店舗棟）の内部を見る。一見すると小さな区画のセレクトショップ的な店舗が並んでいる様に見えるが、実は台湾の国中から集まった起業家や作家たちが、激しいしのぎを削りながら営業している姿であった。同社のバイヤーの目に留まった彼らは、まずワゴンショップにて営業することが認められる、家賃は売上に対する歩掛であるという。好調な営業成績を残した者は、初めて床に店舗を構えることが可能となる。最終的には相当な区画を与えられる。我が国にもありそうでなかった方法ではなかろうか。
イオンなどの大型店舗を見ても、当該店舗の特徴や、出店場所の地域色に乏しい。画一的ですぐに飽きられてしまうという問題をクリアーしているのである。
書店と称するが、実際の書店はワンフロアーのみであり、他は衣食住にかかわ

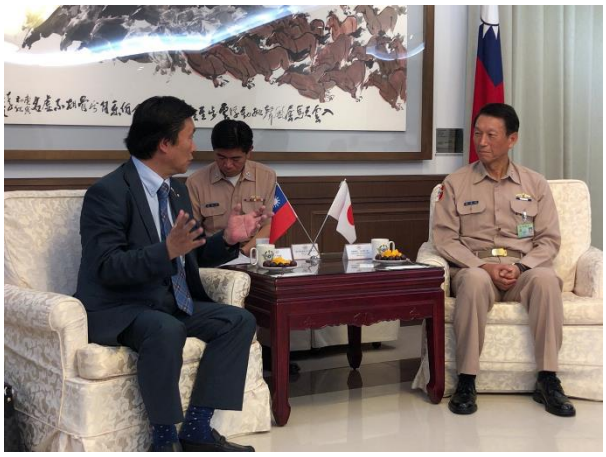
る様々な店舗が占めている。また面白いのが木工や陶芸といった体験型の工房があったことだ。吹きガラス職人の店舗では、客が工房に入って製作体験ができる仕組みになっているなど、じつに多彩であった。

同社は蔦屋書店のビジネスモデルになったと言われているが、それは狭義な意味での意匠のみを差しており、前述のような文化創造に関するデザインにまで踏み込めていないのではないだろうか。同社はこの意欲的な取り組みの先に海外展開を考えておられるそうで、神戸市も選択肢のひとつという。そこで神戸として考える必要があるのは、立地や優遇政策よりも神戸の文化性をいかに理解してもらえるかという事ではないだろうか。例えば神戸セレクションを挙げれば、ここに持ち込んで勝負できるか否かを専門的に検証してみるなどである。なお、日本各地の文化にも市場性を認めており、沖縄文化フェアなどが開催され好評を博している。誘致のためには、これらのフェアにビジネスパートナーとして関与していくべきと思った。（文責 長瀬猛）

7 月 9 日　中華民国国防部参謀総長・海軍大将 李喜明氏と面会・意見交換

我々の宿泊先に国防部より迎えがあり国防部へ。国防部に到着後、林少将、李大佐に出迎えられ、李喜明参謀総長との面会に臨みました。李参謀総長は中華民国（台湾）の全軍人の頂点であり、参謀本部は日本の統合幕僚監部に位置し、参謀総長は統合幕僚長に相当する。この度の李参謀総長との面会は、本年 5 月より台湾と米国間において国防産業の商談として、具体には、蔡英文政権が進める潜水艦の自主建造計画に対する米国企業の参加が、米国政府により許可されたことから、我が神戸市の誇る国防産業企業においても潜水艦建造の実績もあることから、海外輸出の拡大に資することは出来ないかと模索・調査するためである。

李参謀総長に対しては添付資料の通り、要望書を手交した。要約すると神戸市の国防産業企業の採用と、その地ならしの為に現在、東京都にのみ設置されている中華民国国防部の拠点である協調部について、神戸市の設置を求めるとともに神戸市のオフィス進出支援制度の紹介を行うものである。また、会談では、我々自由民主党神戸市会議員訪台団の支援の約束をした。李参謀総長は我々の提案に謝意を示され、先述した潜水艦自主建造の意向とともに、神戸市企業の潜水艦建造技術の評価の上、技術協力を可能とする気運の醸成を求めた。



国防産業の技術協力や輸出は、これまで日本政府の武器輸出三原則が障壁となっていたが、平成26年には防衛装備移転三原則が閣議決定され、実質緩和され、翌27年には防衛装備庁も設置された。また、中華民国（台湾）に対する輸出は中華人民共和国の圧力が想定されるが、先述した通り、既に米国企業との商談が始まっており、米国企業からの受注する形を模索することで打破すべきである。報道には無いが、国交の無い中華民国（台湾）参謀総長と日本の小野寺防衛大臣の接触は米国において本年 5 月に既に行われている。そして、神戸市では、昨年 8 月には日華親善神戸市会議員連盟 安達会長を駐日協調部長が訪問しており、自由民主党神戸市会議員は、中華民国国防部とのパイプを構築してきたところである。

参謀総長がその他の公務を取り払い地方議員との面談は異例ともいえるが、それだけに神戸市に対する期待は大きいものと推察される。安倍内閣による防衛装備移転三原則や、国防産業の製品の輸出については、批判的な論調もあるところであるが、日本が同じ自由と民主主義の価値観を共有する中華民国（台湾）に対する協力は、人権の保障もなく覇権主義的な中国の脅威に対抗する上でも崇高な価値があり、神戸市にとっても、地元企業の活性化は、税収アップにもつながり、ひいては神戸市民福祉の向上にも通ずるものである。

よって、地元神戸市から、神戸市当局と神戸市会議員が、日台友好親善を強力に推し進めるとともに、今後、構築した中華民国国防部の人脈について、慎重に選択しつつ、神戸市当局や他会派の議員にも共有し、国防産業企業が存在する政令指定都市として国に対する働きかけを推し進めることを提案して参りたい。日台両国間には国交は無いが故に政府が安全保障などのセンシティブな問題を取り扱うことには慎重であり、中国に対して過剰な配慮をする傾向が政府

や外務省にはあるが、地方自治体には、何ら関係のないことであり、日台両国の相互互恵の為、友好と連携を強力に推し進めて参りたい。（文責 上畠寛弘）

今回の視察では珍しい台湾の国防省への表敬訪問に向かった。大変興味があったのは、台湾は中華人民共和国との関係が微妙な事で、又日本との関係も微妙なのだ。その中の軍の位置づけはどうなのか。ある議員が神戸は川重、三菱が潜水艦を造っている。買って下さればありがたいと発言すると、台湾参謀総長は笑いながらいくらでも買いますが、まず日本政府の OK を取って下さいと答弁。その通りで台湾のおかれた微妙な位置を表わしている。又、私から仮に中国が台湾に進軍して来たら韓国と日本の沖縄の米軍が応援に来るまで持ちこたえる事が大切だが対策はどうかと聞いた。これに対し参謀長は良く分からないと答弁して下さった。私はそう答えると予感していた。作戦的にもシミュレーションをしていても発言できないだろう。それ程微妙な立場にある軍なのだ。この軍はいざとなると政府の指揮下に入ると信じるかどうか私は心配している。聞くと日本の自衛隊との親交もあるようだ。どうか軍の世界は別とならないようこの時は一国民として願った。今回の視察は価値があったが、これから人脈を深める必要があると痛感した。（文責 安井俊彦）

当初地方自治体の議会として国防部とどの程度の話ができるのかと考えていたが、台湾国防部の参謀総長をはじめとする制服組トップは、とても斬新で地方という観点から新たな可能性を探ろうとする、蔡英文政権の意思と言っても過言ではない強い意気込みを感じた。また、彼らとの交流は、私たちにとって当たり前のように感じていた神戸市の強みを再確認する良い機会でもあった。すなわち、鉄鋼の町として発展した神戸は、技術が集約されており、有名企業だけでなくあらゆる分野が彼らには魅力的に映っているということだ。それは軍事だけにとどまらず極めてひろく、そして奥深い。私が懇談した幕僚は、日本のものづくりの精神性にもっとも関心を寄せていた。

両岸関係は緊迫の度を高めており、訪台初日の新聞には、中国の新型艦艇が台湾海峡に侵入したと伝えていた。それにも拘わらず私たちを国防の中枢に招き入れて懇談した意味は大きいと思う。中長期的に台湾との技術交流の拡大は、神戸のそれにとっても魅力的である。私たち神戸市会としても、国の専管などと及び腰になるのではなく、積極的に絆を深めて、わが国の台湾政策の先駆け的な働きができるのではないかと感じた。（文責 長瀬猛）

中華民國國防部参謀総長 李喜明閣下、

私達、日華親善神戸市会議員連盟を構成する自由民主党神戸市会議員団に所属する神戸市会議員は貴国との親密な友好関係を進めて参りたいと考えております。

貴国におかれては日本では東京都には台北駐日経済文化代表処、横浜市に横浜分処、大阪市に大阪弁事処を設けています。しかしながら、神戸市には貴国の出先機関はございません。神戸市では貴国との交流の歴史が深く、貴国国父 孫文先生も神戸市に滞在され、孫文先生の記念館が神戸市にはございます。今も貴国民のコミュニティも存在し、台湾系企業の進出も進んでいます。今後益々の日本と貴国の自治体連携、経済連携、学術連携、そして安全保障上の連携が重大な中において、神戸市に貴国出先機関として、協調部機能も備えた弁事処の設置を強く求めます。

神戸市は、新幹線をはじめＪＲ、私鉄、地下鉄など様々な手段によって縦横に結ばれた鉄道網、高速道路が整備され、西日本は勿論、東京へのアクセスは抜群です。神戸都心部からは最短 18 分で神戸空港へアクセス可能であり、神戸港は開港より１５０年を経て世界１３０余国５００余りの港と結ばれており、神戸市は人の移動だけでなく、物流ニーズにも対応するコンパクトな港町です。神戸市に進出された場合には、神戸市内であれば、賃料に対して最大４分の１、限度額７５０円/㎡、100 万円/年、最大 36 カ月の補助を行っており、更に神戸市の神戸国際経済地区内でオフィスを賃借される場合は、賃料に対して最大 2 分の１、限度額１５００円/㎡、200 万円/年、最大 36 カ月の補助を行っており、台湾の公的機関や企業の進出に対して万全の準備が出来ております。また、台湾と米国の企業による台米国防産業フォーラムが 5 月に高雄市で開催され、米国国務省が 4 月に許可した米国企業に台湾との商談の流れを鑑み、神戸市内の企業の様々な製品の積極的な採用を頂きたいところです。

以上につきまして、私達神戸市会議員は、日台友好の発展に最大限貢献することをお約束し、強く要望いたします。

平成 30 年（2018 年）7 月 9 日

日華親善神戸市会議員連盟・自由民主党神戸市会議員団

神戸市会議員 安達和彦　　神戸市会議員 安井俊彦
神戸市会議員 平井真千子　神戸市会議員 佐藤公彦
神戸市会議員 河南忠一　　神戸市会議員 長瀬猛
神戸市会議員 五島大亮　　神戸市会議員 植中雅子

神戸市会議員 岡田裕二　　神戸市会議員 上畠寛弘

台北市公共施設母乳保育自治条例

台北市は日本と比べて圧倒的に授乳室やおむつ替え等出来るベビールームが多いことと感じる。その理由を高速台北駅に掲示されたポスターで気づいた。それは、台北市公共施設母乳保育自治条例の存在であった。趣旨は、母乳保育について公共空間においても推進できるように、きちんと授乳室の整備を義務づける主旨のものである。神戸市も子育て世代にとって住みよい訪れやすい環境整備のために参考にしたい。台北市衛生局では母乳促進もＨＰ上で母乳育児の利点についてＱ＆Ａ方式で紹介されている。授乳について「母乳育児」や「混合育児」など縷々考えはあるが母乳育児を選択した親としてはありがたいと感じた。しかし、これだけ子供と子育て世代に配慮した政策を展開しても台湾の

少子化は日本より厳しい現状であることも認識しなくてはならない。（文責 上畠寛弘）

中華民国・台湾 調査全体を通した所感

初日の視察先は、台北市にある台湾対外貿易発展協会に訪問し、黄志芳董事長（会長）と面談しました。

本協会は、台湾貿易センターとして台湾企業の海外進出の支援や、台湾への外資系企業の誘致などを行っています。

この度、神戸市西区にある工業団地、サイエンスパークへ台中市に本社を置くハイウィン株式会社が、約１５０億円程度の投資を行い、工場を建設する予定となっており神戸市と台湾との経済交流が盛んに行われています。

現在、西日本にある台湾貿易センターは、大阪市にあるアジア太平洋トレードセンター（ATC）に大阪事務所が入っていますが、電車の乗り換えなど大変不便なところにあり、同席していた前大阪事務所長からも同感であると述べていました。

神戸市では、新事務所設置に係るオフィス進出支援制度があり、本件について説明した上で、西日本の拠点の観点から、東西からも訪問が容易である神戸市の立地メリットが非常に高いことなどの説明を行い、事務所誘致に向けた取組みおよび経済交流の更なる発展をお願いした。

２日目には、高雄市にある高雄展覧館にて「第４回日台国際交流サミット in 高尾」が開催され、参加した。

今大会は、金沢市、和歌山市、熊本市に続く開催となり、台湾における初めての大会が高雄市での開幕となりました。

本サミットの開催目的は、日台友好の新時代をテーマとして、更に活発な日台交流のため共通の展望に向かって邁進すること、またこの共有を通じて手を携え、共に世界に貢献することを願うとあります。

日本からは、３００人を超える地方議員と４０団体が参加し、台湾側からは、２２議会から１１８名もの地方議員が参加しました。

高雄市議会の康裕成議長と全国日台友好議員協議会会長である藤田和秀名古屋市会議員との間において、高雄宣言が採択されました。

これは、両国が民主主義の理念を共有するパートナーであり、災害時などにおいてお互いに支えあう関係を保持し、台湾と日本の友好の新時代を築くというものです。

これからの両国が災害時に留まらず、経済や観光などの結びつきを更に深め、相互協力しながら諸問題の解決に向けた取り組みが益々盛んに行われることを期待します。

次に新竹市へ移動し、邱鏡淳県知事との面談を行い、日本への企業誘致について要望しました。
当地には、花王株式会社が新竹工場を建設しており、経済の相互交流が行われております。
台北市にある誠品書店の視察では、書店というよりは複合ファッションビルまたは大きなショッピングモールとなっており、中でも印象深かったのはスタートアップエリアがあり、新しい小さな店舗がたくさん並んでいました。
一定の売上高等を達成すれば、一般のフロアでの出店が出来るといったものでした。
これは店舗創業をしようと頑張っている若手事業者にとっては、とても有効な方法だと感じました。
最終日での視察先は、台湾の国防部へ伺い参謀総長へ表敬訪問を行いました。懇談では、日本と台湾の災害時における相互協力体制が必要であり、そのためにも市民レベルでの相互交流や観光、経済交流などが大切である。
これからもその関係が更に深くなることを願うところです。

この度の台湾視察では、神戸市と台湾各地における企業誘致や経済交流などの目的をもって要望書を提出し、その意義目的をしっかりと伝えることで、その実現に少しでも近づけることが出来たのではないかと実感しています。
これからは今回の視察で得た実績を、実現に向けて取り組んで参りたいと思います。
（文責 佐藤公彦）

７月の豪雨災害で、神戸市内のみならず、兵庫県及び関西の広域範囲で災害による被害が発生した。それを受けて７月１０日、台湾の蔡英文総統より、日本語で激励メッセージが届き、日本円にして二千万円もの資金援助の申し出がなされた。
今回日華親善神戸市会議員連盟を通じ、日台両国で、今後地震や台風などの自然災害や防災・災害救援に関して協力し、両国の自然災害の影響を軽減する相互協力体制を築いていくことが提案された「日台交流サミット」に、政務活動調査として参加させていただいたが、こうした地方議員の草の根外交が、国家間の助け合いに昇華する、その貴重な一端を担えたのではないかと、深い意義を感じている。
台北市の台湾対外貿易発展協会では、会長（董事長）の黄志芳氏と面会がかなった。氏は 2006 年から 2008 年まで台湾政府の外相を務め、最近では蔡英文

総統の「新南向政策」を支えるブレーンとして、総統府と対外貿易発展協会を行ったり来たりされておられる、まさに台湾国家の主要人物だ。

台湾政府の外交部（外務省）を代表し、前駐日総領事の蔡明耀氏ともお会いいただくことができた。蔡明耀氏は「外交部主任秘書」で、日本で言えば「外務省官房長」であり、外務省のナンバー２・３に相当するぐらいの方だ。

私からは蔡氏に対し、世界の人口爆発が続き、中国がますます覇権主義化していく中で、東アジアの資源戦争を乗り切るためにも、日台関係の強化は焦眉の急であり、台湾基本法など形に残るパートナーシップを築くべきだ、などの意見を申し上げた。

高雄展覧館で開かれた「日台交流サミット in 高雄」で、基調講演を行った謝長廷・駐日代表（元首相）は、昨年だけでも、台湾の首長や地方議員は日本の 14 の県市を訪れ、日本の知事や市長はまた台湾へ 23 回も訪問し、双方で 32 の友好協定が署名され､台湾と日本の非政府間交流は 646 万人に達したと述べた。

地方空港からの直行便が増えつつあり、例えば、日本の高校生が海外に行く際の最初の選択肢として、台湾のツアーを選択した数が、ハワイに行くよりも多くなり､日本への台湾観光客は過去 10 年間で 5 倍になったことが強調された。

こうした日台関係の深化は、東アジアにおける国際政治が激動化する中、まさにわが国、そしてわが神戸の市民の安全を守るために直接的な利益がある。台湾の中央政界、地方政界との人的交流の深化は、大変重要な課題であると痛感した。

今回の台湾出張では多くの重要人物との面会・交流がかなった。今後市民に対する具体的な還元につながるよう、今回得られた知己をしっかりと育て、市政に生かしてまいりたい。（文責 岡田裕二）

平成 30 年 7 月 6 日（金）～7 月 9 日（月）に日華友好議員連盟で台湾を訪れ、視察並びに意見交換や交流の機会を得ました。以下のように所見を述べます。午前 11 時半に中華航空にて桃園空港到着後、台湾貿易センター・観光局を訪問し、中華民国対外貿易発展協会や台北市政府観光局の方々より貿易や観光のプレゼンテーションをうけ、ランタンフェスティバルの参加国紹介や賑わいの様子を画像で見せていただきました。是非神戸からもブース出展をと要請があり、それにお応えして積極的参加と共にさらに神戸まつりにもご参加いただき、さらなる交流を深めていきたいものです。夜には、神戸での日華関連イベントにも何度かご出席いただいておりました中華民国外交部蔡明耀主任秘書と久々にお会いし、旧交を温めさせていただきました。

7 月 7 日には日台交流サミットＩＮ高雄が行われ､開会式､サミット､宣言発表、

台湾ＰＲ活動、晩餐会のすべてに参加をいたしました。
神戸からは 13 名が参加し東京に次ぐ多人数でありましたが、神戸のアピール度が低いのか、或いは順番があるのか、他都市ばかりが発表をされました。こんな時こそしっかりと、神戸をＰＲさせていただきたいと思いました。
東アジアの安定・繁栄・平和を目標とする「善の循環」の形成により、台湾中部大地震や東日本大震災、高雄ガス爆発事故等々の日本と台湾の助け合いの事例も紹介され、まさに日台交流の新時代を迎えていることを実感いたしました。主催者である高雄市議会の康裕成氏は、国立台湾大学卒業のエネルギッシュな女性議長であります。一昨年高雄を訪問した際も議長も副議長もやはり女性でありました。女性大統領である蔡英文氏の影響が大であるかと想定いたしますが、先進国の中で圧倒的に女性議員の少ない我が国は、まだまだ女性の社会進出が遅れていると言わざるを得ません。その環境整備はもちろんのことですが、日本の男性の意識改革は必須であります。

7 月 8 日には、新竹県を訪問し、邱鏡淳県長や県職員の皆さんより心のこもった温かいおもてなしを受けました。一昨年にも有馬観光協会の皆さんと共に訪れたことがあり、懐かしい再会をさせていただきました。私達の訪問に際して、県長は米国出張の日程を変更して下さったとのことです、おもてなしは日本のお家芸ではありますが、それを上回るものであり、心より感謝です。この新竹県へは、ＩＴ起業家等の若者の移住が多く、子供がどんどん増えているとのことです。最適な立地条件もさることながら、この県の大らかな受け入れ体制もその要因ではないかと察するものです。若者に選ばれる街を目指す神戸市も新竹県の取り組みを是非参考にさせていただきたいものです、
その後、台北にて誠品書店視察。あまりの広さに歩き疲れましたが、書店とはいえ、小さな子供から高齢者に至るまで楽しめる、多種多様性に富んだコーナーやブースが数えきれないほど設置され、神戸への誘致もありかと思いました。特に様々な体験コーナーが大盛況で家族連れで賑わっていたのが印象的でした。

7 月 9 日には、国防部で参謀総長を表敬訪問させていただきました。初めて訪れた国防部の広い玄関には「親愛精誠」と標語が大書され、威風堂々の気概と博愛誠信を感じ取らせていただきました。李喜明参謀総長の温和なお人柄そのものの歓迎会にも心より感謝です。学び多い 4 日間でありました。（文責 植中雅子）